

# 西光寺だより

第二三四号 令和三年 十月一日発行

九月も終わり十月になりました。

お寺の裏、安威川の土手に咲く彼岸花を見ながら、毎年この時期に咲く自然の生業に感心しながら風に吹かれる様子を見ることができました。

九月の大谷本廟墓参の時、大谷本廟にお参りに来られた一人のご婦人からお声をかけられた職員の方のお話。

「コロナなんて、一つも良い事はないですね。でもね、『苦しい』っていうことをお互いに言える、割と特別な時かもしれないですね。」と。

人として在る限り、苦や煩惱を抱えて生きてゆかねばなりません。人間の苦である「生・老・病・死」は、ブツダが明らかにされた真実です。

しかし、私たちは普段そのことを忘れて生きています。そして、しんどい時、苦しい時にだけ嘆き悲しみます。

それが人間というものでもあります。

コロナ禍の中、私たちは皆がづらい思いをしています。その苦しみを互いに共感できる状態は確かに特別な時であり、他人の気持ちに寄り添うことが出来る時ともいえます。

私たち人間は時が過ぎると忘れゆく存在ではありますが、それでも阿弥陀さまはどんな時も決して忘れることなく傍にいて共に苦しみを受けとめてくださっています。「苦しむあなたを決して置き去りにはしません。共にいますよ。」と寄り添ってくださいています。

苦しい状況だからこそ、感じられるものもあるのですね。「南無阿弥陀仏」。浄土からの働きかけは、今ここに届いています。

ふとお声をかけて下さったご婦人との大切なご縁でありました。

合 掌

## ◆先月の報告◆

① 九月十五日（水）大谷本廟墓参に行つてまいりました。

少人数でしたが、みのり講・穂積講のお参りを致しました。天気

にも恵まれて一年の今のご報告をさせていただきました。  
そして、本日の十五日は親鸞聖人月忌法要でありました。親鸞聖人のご命日にあたり、午後二時から明著堂にて法要が行われていました。たまたまのご縁に皆さん足を止め、静寂の中に響きわたるお勤め・雅楽の音色に時を忘れ自然と手を合わす、そんな優しい時を味わうことができました。



浄土真宗本願寺派 白毫山 西光寺

大阪府茨木市西河原一七七一

電話 〇七二一六二二一四七九四

FAX 〇七二一六二二一九二九一

<http://www.osaka-saikouji.net/>

② 九月二十二日(水)西光寺本堂にて仏教婦人会報恩講法要を厳修致しました。久しぶりの集まりになんだかうれしい気持ちになり、皆さんでお焼香し、正信偈のお勤めをいたしました。

そのあと役員編成により今までの役員の方々に感謝し、新たな役員の方々に改めて感謝いたしました。

本当にお疲れ様でした、そしてこれからもどうぞよろしくお願い致します。



③ 九月三〇日(木)西光寺本堂にて秋季永代経法要を厳修致しました。

先人を偲びながら、これからも西光寺が永代へと続いていけるようにとの大切な法要を勤めることができました。皆様ようこそのお参りでありました。今年には感染防止のため、春季永代経法要に続き秋季永代経法要もお昼のみ、お勤めのみの方となりましたが、十一月の報恩講法要はご法話を予定しております(昼のみ一座の予定です)。

皆さんでご聴聞しながら親鸞聖人のご法事を偲びたいと思います。どうぞお参りください。ありがとうございます。



### ◆十一月の行事◆

・十一月 二十三日(火・祝)

#### 報恩講法要

午後二時～正信偈

午後三時～ご法話(一座)

西光寺本堂

◎布教使 和氣 秀剛 師

※感染症対策のため昼のみ、お勤めとご法話があります。

ご了承のほどよろしくお願い致します。